



特産果樹生産情報第7号
(最終号)

令和8年9月30日発表
青森県「農林水産力」強化本部

風害対策や雪害対策を万全に！
園地を清掃し、野ネズミや病虫害の密度低下を図ろう！

I 要 約

- 台風の接近や強風に備え、棚や支柱、防風網などを再度点検し、必要に応じて補強や補修を行うなど、風害対策に万全を期す。
- 収穫を終えたぶどう、おうとう、もも、うめ・あんずの園地では、基肥として10月上旬～中旬に標準施肥量の60～80％程度を施用する。
- 園地の清掃や酸性土壌の改良、野ネズミ対策、雪害対策を徹底する。
- うめ・あんずは休眠期のコスカシバ対策を徹底する。

ツキノワグマ出没警報発令中！

- 農作業の際は、ラジオを携帯するなどツキノワグマによる人身被害の防止に努める。
- 果実等の収穫残渣や弁当の空容器などは、園地に放置しない。

報道機関用提供資料	
担 当 課	農林水産部りんご果樹課
担 当 者	生産振興グループ GM 工藤 秀樹
電話番号	直通 017-734-9492 内線 5146
報 道 監	農林水産部 次長 相馬 宏伊 内線 4967

II 特産果樹生産情報

1 生育概況

- ・露地ぶどうの収穫始めは、鶴田町（県生育観測ほ）のスチューベンで平年より10日早い9月15日、シャインマスカットで2日早い9月21日であった。
- ・西洋なしゼネラル・レクラークの収穫は、南部町で平年より10日早い9月6日から始まっている。

2 作業の重点

(1) 各樹種共通

ア 風害対策

台風の接近や強風に備え、棚や支柱、防風網等を再度点検し、必要に応じて補強や補修を行う。また、幹や主枝などに空洞が生じている樹、雪害を受けた樹や枝は支柱で支え、縄などで補強する。幼木は倒伏しやすいので支柱を立てて結束する。

気象情報に十分注意し、収穫適期に達した果実は、速やかに収穫する。

果実を加工用に仕向ける場合は、農薬使用基準上の問題がないことを確認する。

イ 施肥（基肥）

ぶどう、おうとう、もも、うめ・あんずの基肥は下表を目安に施用する。

施肥量は園地の土壌条件や樹勢によって加減する。

基肥の施用時期と施肥割合

樹種	施用時期	標準施肥量 (kg/10 a、成木)			施肥割合 (標準施肥量に対して)
		窒素	リン酸	カリ	
ぶどう	10月上～中旬	15	10	10	60～80%
おうとう	10月中旬	15	6	12	80%
もも うめ あんず	10月上旬	14	6	10	80%

ウ 土壌改良

(ア) 有機物及び石灰質肥料の施用

土壌の酸性化防止と土づくりのため、有機物や石灰質肥料を施用する。使用後は必ず5 cm程度の深さで軽く耕耘する。酸性土壌を改良する場合は、必ず土壌分析を行い、必要な量の改良資材を施用する。

(分析の依頼先：J A全農あおもり土壌分析センターか最寄りのJ A等)

(イ) 排水対策

おうとう、ももは耐湿性が弱く湿害を受けやすいので、地表停滞水の排水や地下水位の低下を図るため、暗きよなどの排水対策を必ず実施する。

エ 苗木の植え付け

欠木の多い園地では補植を行う。

冬期間に寒害や雪害を受けるおそれがあるので、苗木の植え付けは、春植えが望ましい。春植えは4月中旬頃までに行う。

排水不良地では、植え穴に水が集まり湿害を受けやすいので、排水対策を十分に行ってから植え付ける。

オ 野ネズミ対策

苗木や若木は、野ネズミの被害を特に受けやすいので、食害対策を徹底する。

(ア) 被害の回避

積雪前に果実や作物の残さなどをきれいに片づけ、幹の周囲を清耕し、野ネズミが巣を作るのを防ぐ。また、隠れ場所になる資材等は撤去する。

地上1m位の高さまで（積雪の多い所ではさらに上まで）、樹幹に金網や肥料袋、合成樹脂のプロテクターなどの被覆資材を巻き付ける。

雪が溶けて幹周りに隙間ができると加害されやすいので、2月以降随時確認し、幹の周りの雪を踏み固めておく。

おうとうでは根雪前に、樹冠下を清耕後に忌避剤（フジワン粒剤）を処理し、食害を防止する。

(イ) 駆除

果樹園で利用できる殺そ剤を使用し、野ネズミの密度低下に努める。殺そ剤以外では、ネズミ捕り器などを園地及び園地の周囲に仕掛けて捕殺する。駆除は積雪前と融雪後の2回行うと効果が高い。忌避剤や殺そ剤の使用に当たっては、農薬の使用基準を遵守する。

カ 園地の清掃

野ネズミの被害を防止するため、園地を清掃し、えさとなる果実などを処分する。病害虫の発生が多かった園地では、越冬菌などの密度を低下させるために落葉や落果を集めて土中に深く埋めるなどして処分する。特におうとうの灰星病のミイラ果は適切に処分して菌密度の低下を図る。

キ 雪害対策

(ア) 積雪前の対策

苗木は支柱を立てて枝をひもなどで結束する。成木で、去年の豪雪により被害を受けた枝や雪害を受けそうな枝には支柱を入れるとともに、樹上に雪が積もりにくくなるように徒長枝は剪去する。裂開の生じている樹は、カスガイやボルトで補強する。

ぶどう等のハウス施設や垣根では、マイカ線や番線等がゆるんでいる場合は締め直し、支柱による補強を行う。

(イ) 積雪期間中の対策

大雪の際は、まだ雪が新しく軽いうちに、樹上の雪下ろしや、雪に埋もれた枝を掘り上げる。掘り上げが困難な場合は、溝切り（雪層切断）を行う。雪中の枝

先は、雪が新しいうちに抜き上げる。融雪期に入ったら随時園地を見回り、枝を引き上げる。また、除去してもよい枝で、雪の沈降によって折れたり裂けたりするおそれのあるものは早めに切り取り、直ちに切り口に有効薬剤を塗布する。

(ウ) 融雪促進剤の利用

事前に融雪促進剤を園地に運搬しておく。

積雪期に入ったら、晴天日を選んで、数回にわたり散布する。

ク コスカシバ対策

生育期に枝幹部や地際部に樹脂（ヤニ）又は虫糞の発生が見られる場合は、削り取って幼虫を捕殺あるいは刺殺する。もしくは、虫糞を取り除き、ロビンフッドのノズルを孔に差し込み、薬液を噴射する。

うめ・あんずは「休眠期（落葉後～催芽前）」にガットキラー乳剤100倍を枝幹部と地際部に薬液が十分かかるように手散布する。

(2) ぶどう

ア 収 穫

シャインマスカットは、外観では収穫適期の判定が難しいので、糖度、食味を確認してから収穫する。収穫が遅れると果皮の黄変や果肉の軟化により商品性が低下する。特に、結実初期の若木では熟期が早まる傾向があるので留意する。

<収穫時の留意事項>

(ア) 朝夕の果実温度の低い時間帯に収穫する。

(イ) 完熟果でも降雨があった直後は糖度が低下し、輸送中の腐敗も多くなるので、なるべく晴天時に収穫する。

(ウ) 脱粒したり果粉が落ちたりするので、穂軸を持って丁寧に扱う。

イ 貯 蔵

貯蔵用の果実は、収穫後速やかに冷蔵施設へ搬入する。果軸が太く、果房全体が引き締まり果粒に張りのあるものとし、穂軸は長めとする。裂果粒や腐敗粒は取り除く。

スチューベン、シャインマスカットは、普通冷蔵（温度0℃、湿度約95%）で約2か月間の貯蔵が可能である。なお、シャインマスカットは、プラスチック容器で穂軸から水分補給することにより、約4か月間の長期貯蔵が可能となる。貯蔵限界の目安は穂軸、果軸の萎縮や褐変が軽く見られ始め、果房当たり1～2粒が脱粒し始めた頃である。



プラスチック容器の装着

灰色かび病は5℃以上の多湿条件で多発しやすいので、貯蔵温度は0℃付近に保持する。貯蔵中に発病した果粒、果房は随時取り除く。

ウ 剪 定

剪定は落葉後早めに行う。特に多雪地帯では、垣根など施設を含め、雪害を受けるおそれがあるので遅れないようにする。

結果母枝を1～2芽残して切る短梢剪定（図1）と5～10芽残して切る長梢剪定（図2、図3）の2種類の剪定法があり、品種ごとの剪定法は次表により選択する。

シャインマスカットの場合、短梢剪定は剪定時間が短い、摘粒時間が長く果房の形がやや劣る。長梢剪定は剪定時間が長い、摘粒時間が短く果房の形が優れる。このため、作業性や生産される果房の品質を考慮して、剪定方法を選択する。

垣根仕立てにおける品種の剪定法

剪定方法	品 種
短梢剪定	キャンベル・アーリー、シャインマスカット
長梢剪定	スチューベン、シャインマスカット

※キャンベル・アーリー、シャインマスカットは一文字両側
整枝、スチューベンは一文字片側整枝とする。

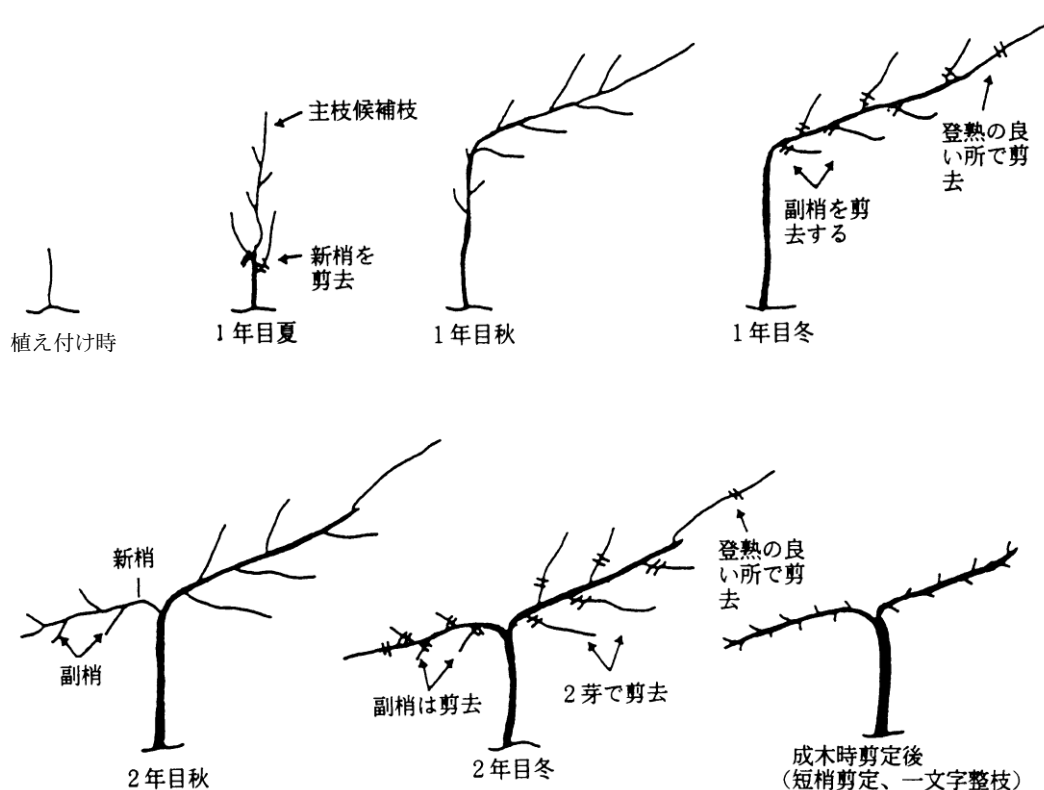


図1 短梢剪定の仕立て方

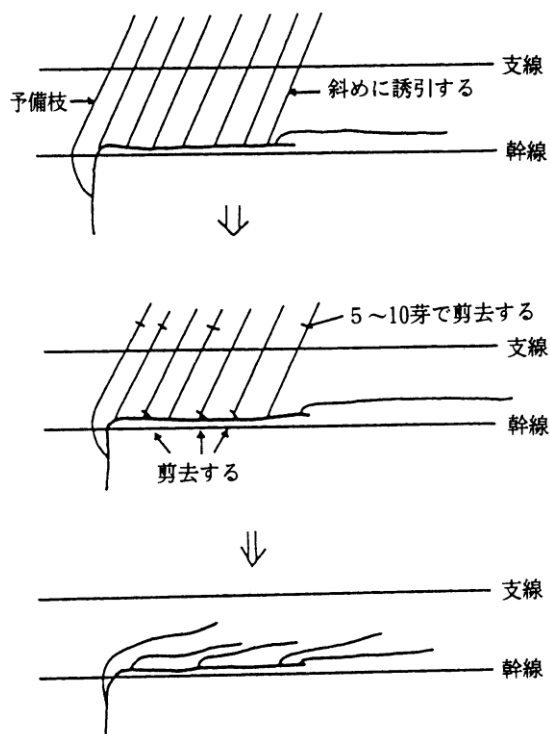


図2 長梢剪定の仕立て方



図3 成木時の長梢剪定後の樹姿

エ 眠り病対策（スチューベンなど）

眠り病は、着果過多や結果枝の徒長、遅伸びなどにより樹体が充実不良となり耐寒性が低下し発生する。

発生を防止するため、主幹や主枝部を稲わらやポリエチレンフィルムなどの被覆資材で被覆し、寒さや乾燥から樹体を保護する。

春遅くまで被覆しておくとも発芽が早まり、晩霜害を受けることがあるので、消雪後、早めに被覆資材を取り除く。

オ 休眠期の病虫害対策

褐斑病、べと病の被害落葉は集めて適切に処分する。

晩腐病や黒とう病などの越冬源となる架線の巻きひげや被害枝は除去し、適切に処分する。

「休眠期」散布は、晩腐病及び黒とう病の重要な防除時期であるので、樹体に薬液が十分かかるように、ていねいに散布する。

ブドウトラカミキリの越冬幼虫が潜んでいる被害枝を切り取って処分する。

(3) も も

ア 病虫害防除

(ア) せん孔細菌病対策

薬剤散布だけで被害を防ぐことは困難であることから、防風対策や耕種的防除を組み合わせた総合的防除を徹底する。

園地内の病原細菌の密度を低下させるため、枝病斑は剪定時に切り取り、適切に処分する。

(イ) 縮葉病対策（令和 9 年春）

「発芽前」にキノンドー水和剤40の500倍、チウラム水和剤500倍（チオノックフロアブル、トレノックスフロアブル）、石灰硫黄合剤 7 倍のいずれかを散布する。「発芽前」の薬剤散布が防除の基本であるので、丁寧に散布する。

(4) な し

ア 収 穫（ラ・フランス）

収穫始めは、満開日からの日数165日（五戸：本年10月10日）、ヨードでんぷん反応指数 1～1.5、地色指数 2～2.5（「日本なし地色用カラーチャート」を使用し、果実のていあ部（尻の部分）のコルク層を薄くはぎ、変色しないうちに比色）を目安に、総合的に判断する。

イ 追 熟（ラ・フランス）

追熟の適温は10～15℃である。追熟の揃いを安定させるため、収穫後、速やかに冷蔵施設へ搬入し、2～5℃で7～10日予冷する。

追熟完了の目安は果実を軽く指で押してみて、押し跡がつく頃である。

ウ 長期貯蔵（ラ・フランス）

貯蔵用の果実は適期に収穫したものを扱い、収穫後は、速やかに冷蔵施設へ搬入する。温度 0℃、湿度90～95％で約 4 か月間の貯蔵が可能である。

なお、長期間冷蔵貯蔵した果実の追熟は15℃以下の低めの温度で行う。

エ シンクイムシ類対策

被害果をそのまま放置すると次世代の発生源となるので、7日間以上水に漬けるか、穴を掘り10cm以上の土をかぶせて埋める。

(5) うめ・あんず

ア カイガラムシ類対策（令和 9 年春）

「発芽前」に石灰硫黄合剤 7 倍を散布する。カイガラムシ類の発生が多い樹では、ワイヤーブラシなどで越冬成虫を落としてから石灰硫黄合剤を散布する。

なお、「発芽前」に石灰硫黄合剤を散布すると、この時期の縮葉病及び黒星病対策の防除剤は必要ない。

《 ツキノワグマ出没警報発令中！！（４月20日～11月30日） 》

- ・ 1人での作業をできるだけ避け、ラジオやクマよけスプレーを携帯するなど、人身被害の防止に努めましょう。
- ・ 果実等の収穫残さや弁当の空容器などは、クマを引き寄せる原因となるため、農地に放置せず、適切に処理しましょう。
- ・ 農地周辺の藪を刈払って見通しを良くすることで、クマの隠れ場所を無くし、クマが農地に近づきにくい環境を整えましょう。
- ・ 詳細は県ホームページをご確認ください。
(https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kankyo/shizen/kuma_cyuui.html)

《 農業保険に加入し、農業経営に万全の備えを！ 》

農業保険には、果樹共済、農業経営収入保険などがあります。自分の経営にあった保険を選択、加入して、自然災害をはじめとしたリスクに備えましょう。
詳しくは、お近くの農業共済組合まで、お問い合わせください。

《 秋の農作業安全運動展開中！（９月～10月） 》

「みんなで声がけ！安全確認！」急がず、焦らず、慎重に！
無理のない農作業を心がけ、良い出来秋を迎えましょう。

《 盗難防止対策を実施しましょう！ 》

近年、全国各地で果樹や野菜などの農作物の盗難被害が発生しています。農林水産省ホームページに、農作物の盗難に係る注意を促すチラシ及び農作物の盗難被害の実態と対応策を整理したパンフレットが掲載されていますので、盗難防止対策の参考にしてください。

農林水産省「農作物の盗難防止対策を実施しましょう」

(<https://www.maff.go.jp/j/seisan/ryutu/engei/tounan.html>)

山火事など火災の発生防止に努めましょう！

【令和８年度第３回りんご等果樹生産技術研修会のお知らせ】

日時	場所
令和８年10月２日（金） 10：00～12：00	【メイン会場】 板柳町多目的ホール「あぶる」大ホール (板柳町大字灰沼字岩井61) 【サテライト会場】 (地独)青森県産業技術センターりんご研究所県南果樹部 会議室(三戸郡五戸町扇田字長下タ２)

※メイン会場の進行をオンラインで中継し、サテライト会場において放映します。

令和８年特産果樹生産概況は11月27日（金）の予定です。